

産業看護職の存在意義に関する研究



大学院・公衆衛生学研究科 講師／産業環境保健学センター
金森 悟 KANAMORI, Satoru

URL : <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/> ・ <http://tcoeh.org/>

看護・
リハビリ
橋板キャンパス

キーワード：産業看護職、ヘルスプロモーション、健康格差

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
 SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

研究の概要

【これまでの研究】

企業における産業看護職の選任は法制化されておらず、その存在意義が認知されにくい。そこで、上場企業を対象に、事業場の産業看護職の有無と健康づくり活動の実施状況との関連を検討したところ、産業看護職がいる事業場の方が様々な健康づくり活動の実施割合が有意に高かった（図）。また、多職種を対象に産業看護職の存在意義を検討したセミナーを開催し、200名弱でグループワークを行った。その結果から、産業看護職の強みは社会人や医療職としてのスキルをベースに、社員にとっての身近な存在として関わり、課題を解決するために各関係者をコーディネートし、看護の視点でPDCAサイクルを回すということを明らかにした。

事業場の産業看護職の有無別の健康づくり活動の実施割合



【現在の研究】

現在は2つのテーマで研究を行っている。1つ目は、企業における産業看護職の配置状況と産業保健活動との関連である。2つ目は、企業側と産業看護職側との認識や能力評価のギャップを明らかにするものである。これらを明らかにすることで、産業看護職の配置やスキルアップにつなげるためのエビデンスを得ることで、産業看護職の存在意義を高めることに貢献していきたい。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

近年、ストレスチェック制度や健康経営優良法人の認定基準などにおいて、産業看護職の積極的な活用が促されている。しかし、産業看護職の雇用状況を調べた調査では、従業員数50名以上の上場企業において、産業看護職を雇用しているのは半数にも満たない（41.4%）ことが明らかにされている。産業看護職が企業や社会でより必要とされる存在になるためには、産業看護職が働くそれぞれの場において存在意義を高めるとともに、社会にも示していくという課題を解決する必要がある。

知的財産・論文・学会発表など

1. 伊藤まり子, 金森悟. 企業内産業看護職の業務に対する関与の必要性と能力—企業担当者と産業看護職の認識に関する記述疫学的研究—. 日産業看会誌 2022；9(2)：62-69.
2. Kanamori S, Kondo N, Takamiya T, et al. Social participation and mortality according to company size of the longest-held job among older men in Japan: A 6-year follow-up study from the JAGES. J Occup Health 2021; 63(1): e12216.
3. 金森悟, 坂本宣明, 白田千佳子ら. 多職種産業保健スタッフの研究会による夏季セミナー開催報告—コロナは世界・健康教育・ヘルスプロモーションをどう変えたのか?. 日健教誌 2021；29(1)：79-86.
4. 金森悟, 甲斐裕子, 川又華代ら. 事業場の産業看護職の有無と健康づくり活動の実施との関連. 産衛誌 2015；57(6)：297-305.

下肢リハビリ用シリアスゲーム



理工学部・情報電子工学科 講師

眞坂 美江子 MASAKA, Mieko

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.b6102c6e15ef78d2.html>

**看護・
リハビリ**

宇都宮キャンパス

キーワード：リハビリテーション、シリアスゲーム

研究の概要

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

シリアスゲームは、純粋な娯楽のためではなく、社会課題の解決を目的として作られるゲームである。

厳しいリハビリ訓練をゲームの力で楽しもうというコンセプトのもとリハビリ用シリアスゲームの開発が進められている。本研究では、下肢運動を対象にリハビリ訓練のためのシリアスゲームを開発している。

下肢の運動は、筋力低下や深部静脈血栓塞栓症の予防に有効であるが、一日に複数回実施する必要がある。そのため、開発するシリアスゲームは、患者が一人で病室内において下肢運動をおこなえるように配慮したシステムとなっている。

システムの構成

患者側のシステムは、タブレット端末と小型無線多機能センサのみで構成

タブレット端末により患者に運動の指示を与え、小型無線多機能センサにより運動を検知する。

運動データは、タブレット端末からネットワークを経由して管理サーバーに送信され、データベースに蓄積される。



図1 システム構成

タブレット端末の画面イメージ

運動選択画面：同一システムで3つの運動が可能

足関節運動画面：音楽に合わせて左右上部から足のイラストが移動してくる。中央下部の足のイラストと重なったタイミングで足関節の底背屈を行う。

下肢伸展挙上運動画面：下肢を挙上すると車が動き出し、タブレットを傾けて障害物をよけながら車を進める。挙上する角度を上げすぎると車がスリップする。

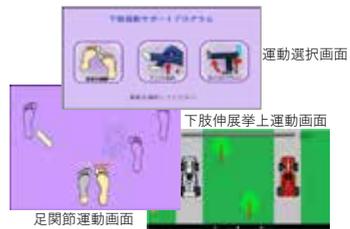


図2 タブレット端末に表示される画面イメージ

看護・リハビリ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

高齢者人口の増加に伴い、在宅介護は今後大幅な増加が想定される。開発したシステムは、タブレット端末と小型無線多機能センサのみで構成されていることから、入院患者のみでなく、在宅介護の場においても容易に導入することができる。また、タブレット端末で収集された情報は、管理サーバーに蓄積することが可能となっており、医療関係者が遠隔から在宅介護者のリハビリ状況を把握することができる。今後様々なデータと連携させることにより地域医療への展開が期待できる。

知的財産・論文・学会発表など

- ・眞坂美江子、石井桂輔、下肢手術患者の足関節運動実態調査と支援システム提案、IEICE Technical report MBE2020-12,2020
- ・宮下優斗・眞坂美江子・石井桂輔、足関節運動支援システムの開発、情報処理学会第82回全国大会講演集、pp.497-498, 2020
- ・金子知広、眞坂美江子、下肢手術者を対象とした下肢自動運動管理システムの開発、情報処理学会第84回全国大会講演集、pp.5ZM-01,2022

ATP 測定法を用いた注射吸い上げ技術の検証



医療技術学部・看護学科 教授

新井 直子 ARAI, Naoko

医療技術学部・看護学科 助教

加藤 志保子 KATO, Shihoko

看護・
リハビリ

板橋キャンパス

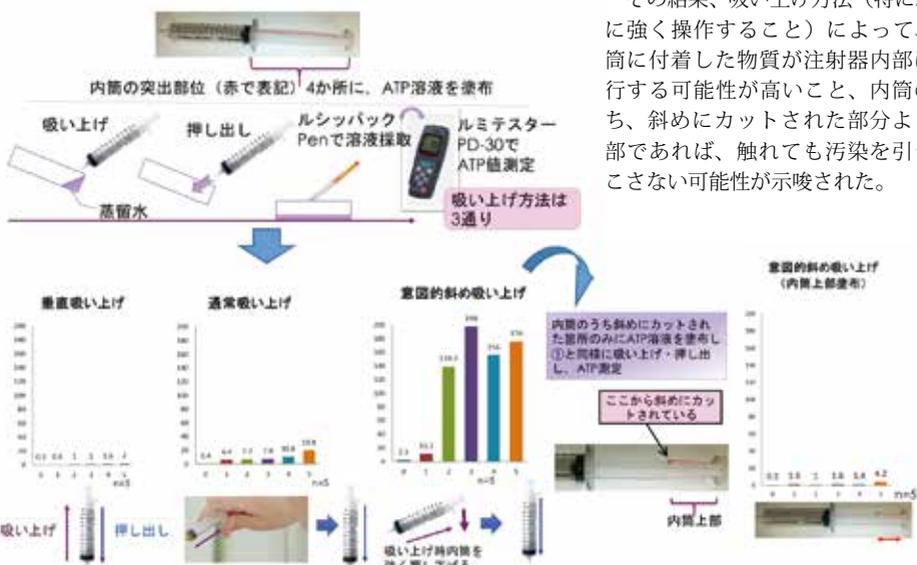
キーワード：ディスポーザブル注射器、薬液吸い上げ、無菌操作、薬液汚染、ATP 測定

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

看護基礎教育では、注射器の操作時は薬液の清潔を保つために、注射器の内筒に手を触れないように薬液を吸い上げることを原則としている。その一方、臨床現場では薬液吸い上げ時に内筒に手指が触れていることもあり、看護基礎教育での内容と実際に矛盾がある。そのため、手指が内筒に触れることによる注射器内部の薬液が汚染する可能性について、ATP 測定法を用いて実験的に検討した。

その結果、吸い上げ方法（特に斜めに強く操作すること）によって、内筒に付着した物質が注射器内部に移行する可能性が高いこと、内筒のうち、斜めにカットされた部分より上部であれば、触れても汚染を引き起こさない可能性が示唆された。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究結果は、エビデンスに基づいた適切かつ臨床現場で活用可能な技術教育につなげていくことができると考える。

知的財産・論文・学会発表など

新井直子、加藤志保子、新井龍：注射器内筒への接触とシリンジ内汚染の関連（第1報）、第40回日本看護科学学会学術集会、2020年12月。

地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症者の ライフストーリーに関する研究



医療技術学部・看護学科 講師

伊藤 文子 ITO, Fumiko

看護・
リハビリ
板橋キャンパス

キーワード：統合失調症、語り、ライフストーリー法、長期入院、地域生活

研究の概要

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

統合失調症とは、思考の異常や自我の障害を主とした疾患である。また、一度罹患すると慢性的経過を辿るため、統合失調症の人々（以下、かれらとする）は、疾患を抱えながら生活を構築していく必要がある。そして、疾患からくる症状や機能障害だけではなく、活動制限や参加制約による社会的な孤立や自尊心の低下が、QOL や社会生活技能等に関連することが明らかにされている。このような状況から、かれらが地域において自分らしく生活を構築するためには、医療者側など周囲からの手厚いサポートが必要不可欠と考えられてきた。しかし、かれらが治療を続けることにより症状のコントロールが可能となり、かならずしも他者のサポートがなくとも、自立的な生活の営みが可能になることも明らかにされている。よって、偏見などから一見理解されにくい奇行と思われるような行動でもかれらにとっては一つ一つに意味があることを理解する必要がある。そのため、ライフストーリー法（桜井, 2002）という、そのかれらのライフ（人生・生涯・生活・生き方）に焦点をあて、その人の経験を基に自己の生活世界そして社会や文化の諸相や変動を読み解きながら、その人が丁寧に積み上げてきたライフを明らかにできる手法を活用しながら、かれらがどのように生活実践を行い、自分の生活を維持しているのか、またかれらの生活を支えている社会資源や方略がどのようなものか、医療者側の考えるサポートではなく、かれらが必要とするサポートが見いだせるような研究を行っている。以下は、ライフストーリー研究の分析手順の概略である。

参考文献：桜井厚（2002）インタビューの社会学 ライフストーリーの聞き方、せりか書房

1. 個人のライフの語りを文字化する(トランスクリプト(逐語録)の作成)

2. 語りからストーリーを抽出し、語り手のこれまでの経験（物語世界）とその経験をどう評価しているか（ストーリー領域）を整理して、その人のコアになる考え方を抽出する。

3. ストーリーごとの分析・解釈を行い、かれらの語りについて意味づけを行い、その人の生活世界の理解につなげる（語りからその人にとっての事実の発見！）。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ライフストーリーとは、個人のライフ（人生・生涯・生活・生き方）に関する口述の物語のことをさす（桜井, 2002）。個人のライフに焦点を合わせ、その人の経験を基に自己の生活世界そして社会や文化の諸相や変動を読み解くことを目的としている質的調査法の一つであり、その人の人生の背景（ライフヒストリー）を踏まえながら、個人のライフを明らかにできることから、当事者自身の価値基準に沿った生活世界についての理解が期待される。

知的財産・論文・学会発表など

【論文】伊藤文子：精神科病院への長期入院の背景－Aさんの語りから見る3つのポイント－, (社)日本ライフストーリー研究所, 6, 115-130, 2021.

伊藤文子：地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症の人びとにおける自尊心の維持に関するライフストーリー研究, (社)日本ライフストーリー研究所, 5, 54-68, 2020.

【科研費若手研究】地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症者の生活維持の方略とその支援の在り方 (22K17481) 研究代表者, 2022-2024年度。

性分化疾患女性へのケアガイド



医療技術学部・看護学科 准教授
石見 和世 IWAMI, Kazuyo

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.83338c28817cad99.html>

看護・
リハビリ
 橋樑キャンパス

キーワード：性分化疾患（DSD）、性自認、原発性無月経、Full disclosure

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要



編集 & 共著，診断と治療社，
 2019

性分化疾患（disorders/differences of sex development：DSD）は、染色体、性腺、あるいは解剖学的な性が非典型的な状態と定義され、DSD の社会的性決定を規定する因子は単一ではなく、性染色体、性腺、外性器、内性器、性ホルモンによる第二次性徴、戸籍上の社会的性、心理的な性などさまざまなものを勘案する。DSD は、出生時の非典型的な外性器を中核症状とし、広義には第二次性徴の発来異常も含まれ、出生直後から生涯にわたり、内科的・外科的治療や病気の説明時も丁寧かつ慎重なケアを必要とする。

なかでも、思春期以降に DSD が判明および病気説明した場合は、性自認の混乱、染色体や妊孕性の問題に直面するため、特に女性の場合は、心理的葛藤やうつ状態など、心身面で長期にわたり QOL の課題が生じやすい。しかし、患者へのフォローアップは、ガイドラインや手引きがないうに、チーム医療体制も整っていないため患者対応が立ち遅れている。

これまでの研究経過から、DSD 診療において看護師の対応不足が大きな課題としてあがってきた。よって、DSD のチーム医療を効果的に展開するために看護師の役割を明確化したケアガイドの作成に着手している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

この疾患群の課題は、当事者やその家族だけに焦点があてられるのではなく、社会が多様性に寛容であり正しい知識を有することが求められている。よく誤解されがちな LGBTQ との混同をなくすためにも、学校教育やマスメディアなどへ偏った情報発信をすることがないよう啓蒙活動に努めている。

また小児看護専門看護師として、小児専門病院にて直接的に相談と教育活動に従事しており、研究成果は、チーム医療のなかで看護実践を検証するとともに新たな知見として研究を積み重ねている。

* 専門看護師とは

日本看護協会が認定され、より困難で複雑な健康問題を抱えた人、家族、地域等に対してより質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有する看護師のこと。

知的財産・論文・学会発表など

1. Iwami Kazuyo, Sumiyoshi Tomoko, Ida Shinobu
 Psychological changes and process of adaptation in women with primary amenorrhea associated with disorders of sex development Global Journal of Health Science. 13(11) : 1-13, 2021.
2. Iwami Kazuyo, Sumiyoshi Tomoko
 Ethical issues regarding full disclosure to women with primary amenorrhea associated with disorders of sex development in Japan Eubios Journal of Asian and International Bioethics. 31(5) : 260-266, 2021.
3. 石見和世, 住吉智子
 性分化疾患を伴う原発性無月経の社会的女性が受診時に医療従事者から受けた体験, 医学と生物学. 162(4) : 1-9, 2022.

中高年者における健康行動を促進する 心理社会的要因の研究



医療技術学部・看護学科 准教授
遠藤 寛子 ENDO, Hiroko

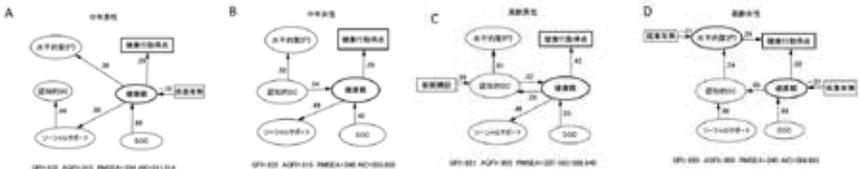
看護・
リハビリ
橋樑キャンパス

キーワード：心理社会的要因、ソーシャル・キャピタル、首尾一貫感覚

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

健康行動を促進する心理社会的要因の因果関係モデルを構築することを目的として首都圏在住の中年、前期高齢者世代を対象にインターネット調査を実施し、1,240名を分析対象とした。健康行動の関連要因として抽出された、「水平的繋がり」、「ソーシャルサポート」、「認知的ソーシャル・キャピタル:SC」、「健康観」、「首尾一貫感覚:SOC」の構成概念を潜在変数とした共分散構造分析により、因果関係モデルを作成した結果、健康行動を直接的に促進する要因は、すべての年代・性別において、自分が健康であると感じ自身で健康をコントロールできると考える健康観であり、中年世代に比べ高齢世代で健康行動に強く影響した。高齢女性では水平的繋がりも直接的に健康行動に影響した。健康行動の間接的促進要因として、すべての年代・性別でSOCの高まりが健康観を高め、健康行動を促進した。また認知的SCは、中年女性及び高齢男性では健康観、高齢女性では水平的繋がりに影響し、健康行動を間接的に促進した。健康行動を促進するには健康観を高める要因であるSOCの強化が重要であり、さらに高齢期に向けて、男性に対しては認知的SCの強化に寄与する働きかけ、女性に対しては水平的繋ごりの促進に向けた支援が有効であることが示唆された。



健康行動得点と心理社会的要因の因果関係モデル

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヘルスプロモーションの一層の発展に向けて、個人の健康行動は健康観に促されるものであることに基づき、健康観を高める要因であるSOCの強化を目指すことが重要である。この方法のひとつとして、ストレス対処方略やセルフマネジメントに対する介入支援が挙げられる。高齢期に向けた方策として、男性に対しては、認知的SCの強化に寄与する人への信頼や地域への関心、愛着が高まるような働きかけ、女性に対しては水平的繋ごりの促進のための、趣味や運動グループ等の水平的組織への所属や友人づくりに向けた支援が有効であることが示唆された。このことは、ヘルスケアビジネス分野でのマーケティングにおける、ターゲットを絞った戦略に向けての知見の一つとなる。

知的財産・論文・学会発表など

論文 遠藤寛子、中山和弘、鈴木はる江：首都圏在住中高年者における健康行動を促進する心理社会的要因の研究—共分散構造分析を用いた因果関係モデルの検討—（原著），心身健康科学，14（1），2-16，2018。

学会発表 遠藤寛子、中山和弘、鈴木はる江：健康行動に関連する心理社会的要因の世代間比較，第23回日本心身健康科学学会学術集会、口演、東京，心身健康科学，13（1）：30-31，2017。

遠藤寛子：健康行動に関連するHLCの検討—年代別共分散構造分析—，第78回日本公衆衛生学会総会、示説、高知，日本公衆衛生学会総会抄録集，78：315，2019。

育児と介護のダブルケア



医療技術学部・看護学科 講師
寺田 由紀子 TERADA, Yukiko

URL : <https://researchmap.jp/y-terada>

看護・
 リハビリ
 橋樑キャンパス

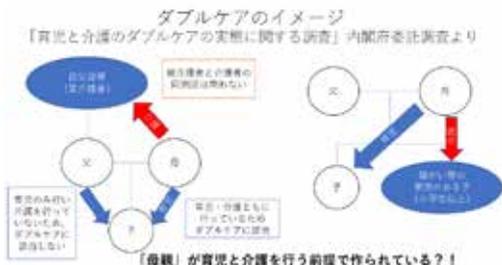
キーワード：男性の育児と介護、ケアリング・マスキュリティ、ダブルケア

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

育児と介護の同時進行のことを「ダブルケア」と呼ぶ。日本において少子高齢化社会が著しいスピードで進行しており、女性の出産年齢の高齢化は、自身の親世代が高齢者の世代に差し掛かり、育児と介護の両立が求められる可能性が高い。晩婚化と出産年齢の高齢化によって、親の介護と子育てに直面する「ダブルケア」を行う人が増えている。Global Gender Gap Report 2020によると、日本のジェンダーギャップ指数は153か国中121位であり、先進国における最下位レベルである。

日本人男性は、これまでケアの主体となるよう育てられていなかったが、近年は、育児への参画のみならず、男性が老親の介護を行う息子介護の増加も著しく、男性自身がケアの主体になる必要性が高い。男性がケアする力を身につけることは、現代日本においてまさに喫緊の課題である。そこで、男性がケアの主体となり、育児や介護に取り組むための支援を「ケアリング・マスキュリティ」という概念を用いて研究している。



看護・
 リハビリ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- ◎ 2020年度 総務省 異能vationプログラム ジェネレーションアワード部門 ノミネート「お助け！マッチングシステム 育児と介護のダブルケアラー支援～夫婦で仕事も育児も介護もすべてを諦めない～」寺田由紀子
- ◎ 日本初！医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体 DC NETWORK 代表メディア放送：NHK 放送局 NHK 教育「すくすく子育て」にて活動が紹介される（2021年10月30日）
- ◎ ダブルケア支援団体への学術的支援（更年期やジェンダーに関する助言など）
- ◎ 東京都 家庭と仕事のポータルサイト（東京都 産業労働局 雇用就業部 労働環境課）に掲載「ダブルケアと仕事の両立を推し進めるために」（2021年4月～）
- ◎ 「子育てと介護のダブルケア 事例からひとつと連携・支援の実際」中央法規出版（分担執筆）（2023年2月）



DC NETWORK HP

知的財産・論文・学会発表など

- 科研費基盤研究 (C) ダブルケア（育児と介護）を夫婦協働で行う「コ＝ケアラー」モデルの開発 (19K11098)
- 科研費基盤研究 (C) 育児と介護のダブルケアラーが夫婦協働でケア力を高める健康支援プログラムの開発 (23K10164)
- 2020年1月 「連載 助産師のためのウィメンズヘルス入門 女性 caregiver とウィメンズヘルス」臨床助産ケア 日総研 吉沢豊予子・寺田由紀子
- 2020年12月 ケアリング・マスキュリティの研究動向に関する文献検討 第40回日本看護科学学会学術集会
- 2021年12月 ケアリング・マスキュリティ尺度 (CMS) の信頼性・妥当性の検証 第41回日本看護科学学会学術集会
- 2022年12月 ケアリング・マスキュリティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響/看護の対象である男性を捉える新しい視点—男性性とケアリング・マスキュリティ 第42回日本看護科学学会学術集会
- 2023年7月 ICN Congress2023 in Montreal, Canada, 1-5 July 2023にて発表

流死産を経験した女性と家族への看護 —対象へのサポート、そして看護基礎教育における教授方法—



医療技術学部・看護学科 講師
寺田 由紀子 TERADA, Yukiko

URL : <https://researchmap.jp/y-terada>

看護・
リハビリ
板橋キャンパス

キーワード：流産、死産、ペリネイタルロス、子育て、看護基礎教育

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

昨今の日本では晩産化が進んでいる。妊娠する年齢が高くなればなるほど、流死産を経験する率が高くなる。流死産を経験した女性は、体力と気力の低下がみられ、抑うつ状態となる可能性もあるが、流死産を経験した女性に子どもがいるとこのような状況でも子育てを行わなくてはならない。流死産を経験した母親が育児を行うには、夫や家族との関係性や支援が重要である。

そこで子育て中に流死産を経験した母親が家族に望む支援を明らかにした。

流死産を経験した女性は、胎児の死をタブー視する文化的背景もあり、思いを表出できず抱えていることが多い。思い切って伝えても、周囲からの励ましの言葉に却って傷つき、より一層悲しみを深めることもある。また、夫の方も、悲しみや辛さを話したくとも、周囲から妻を支えることを求められ、感情を表出できないことも多い。そこで、男性側の心情をふまえた支援については、「ケアリング・マスキュリティ」の理論を用いて検討している。

さらに、看護基礎教育において、学生が流死産を経験した女性や家族の抱く思いを知るために、体験談を用いて、看護職者としての関わりを考える授業を実践している。



[「ANGEL TRAIN」HP](#)

看護・
リハビリ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

助産師であり、公認心理師のライセンスも所持している。研究のみならず、支援活動にも力を入れている。

☆流死産の経験をされた方とパートナー、上の子どもたちや祖父母などのご家族の支援を行う会

「ANGEL TRAIN」 共同代表

2022年10月4日に立ち上げた医療専門職のみで構成されている団体である。

今後、地域における支援活動や、医療機関との連携を図りたいと考えている。

<https://angel-train.amebaownd.com/>

☆流産・死産経験者で作るポコズママの会「ポコズママの会 お悩み相談室」アドバイザー

「ポコズママの会」は、流産・死産（人工死産）・子宮外妊娠・胎状奇胎・新生児死などの理由により、児を亡くされたご家族同士の相互支援を目的として活動している非営利任意団体である。

その活動の一環としてHP上に「お悩み相談室」があり、流産・死産・新生児死など、妊娠中あるいは出産後すぐに児を亡くされたご家族からの相談を受け、回答することで対象への支援を行う。

<https://pocosmama.jp/bereave/faq/web02/>

知的財産・論文・学会発表など

- 1) Yukiko Terada, Support expected from families by mothers who have miscarried while raising preschoolers, 家族看護学研究, 27 (1), 2021.
- 2) 寺田由紀子、近藤麻理；乳幼児の子育て中に流産を経験した母親が家族に望む支援, 第37回日本看護科学学会 学術集会, 2017年12月17日
- 3) Yukiko Terada, Junko Nasu, Yoko Yamamoto, Mari Kondo ; Nursing Education Program on Perinatal Loss in Japan, The ICM Asia Pacific Regional conference 2015, July 22, 2015.
- 4) 寺田由紀子；当事者の事例とラベルワークを用いたペリネイタル・ロスの講義の実践, 日本看護学教育学会 第23回 学術集会, 2013年8月7日

日本人成人の循環器疾患リスク認識モデルの構築



医療技術学部・看護学科 教授
林 さとみ HAYASHI, Satomi

看護・リハビリ
 板橋キャンパス

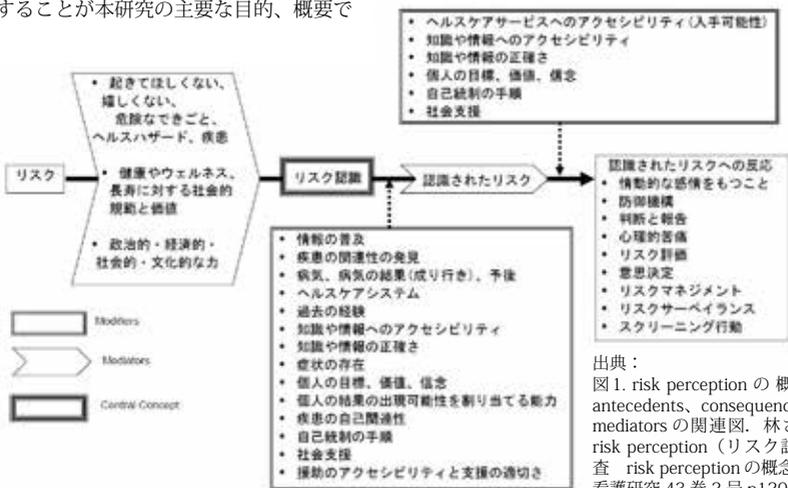
キーワード：循環器疾患看護、リスクマネジメント、行動変容

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
 SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

「リスク認識」という概念について検証した結果、その概念的特性は、人間の疾患の発症や望ましくない結果に至る可能性・危険性（リスク）に対し反応して引き起こされる理性的・感情的活動の結果、それぞれの個人がその可能性・危険性を特有の信念として創出していく過程であり、認識されたリスクは各個人に独特なリアリティとして受け止められ、下図に示すように、その個人が置かれている多様な社会的要因がリスク認識とその後の行動変容の過程に大きく関与しているということが明らかになった。

最近の疫学的データは、循環器疾患危険因子を持つ中壮年期の日本人の増加を示しているが、健康維持、増進行動に関する既存の理論的概念枠組みでは不十分であり、日本人成人の対象者から抽出した概念枠組みを構築することが本研究の主要な目的、概要である。



出典：図1. risk perception の概念における antecedents、consequences、modifiers、mediators の関連図。林さとみ (2010). risk perception (リスク認識) の概念精査 risk perception の概念開発に向けて、看護研究 43 巻 2 号 p120, 医学書院

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本人の中壮年期の成人が、社会的役割を果たしながら、循環器疾患のリスクを減少・軽減するための支援として、スポーツジムなどの施設におけるプログラムの開発、日常生活の中で実践できるエクササイズの開発、中食の開発、などが期待される。

知的財産・論文・学会発表など

「Risk perception (リスク認識) の概念精査：Risk perception の概念開発に向けて」看護研究 43 巻 2 号 P109-122
 「Perceived Risk for Cardiovascular Disease among Japanese Adults」

URL : <https://pqdopen.proquest.com/doc/868711686.html?FMT=ABS>

「日本人成人の循環器疾患リスク認識尺度の検証」：第 36 回 日本看護科学学会学術集会に於いて発表

Perceived risk for cardiovascular disease among Japanese adults

Virginia Henderson Global Nursing e-repository, URL: <https://hdl.handle.net/10755/20600> (2020/05/29)

がん術後患者の栄養評価と食事管理法

医療技術学部・看護学科 准教授

古屋 洋子 FURUYA, Yoko
URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.ba09dd07706a7b2f7.html>
**看護・
リハビリ**

橋樑キャンパス

キーワード：周術期患者、栄養評価、食事管理

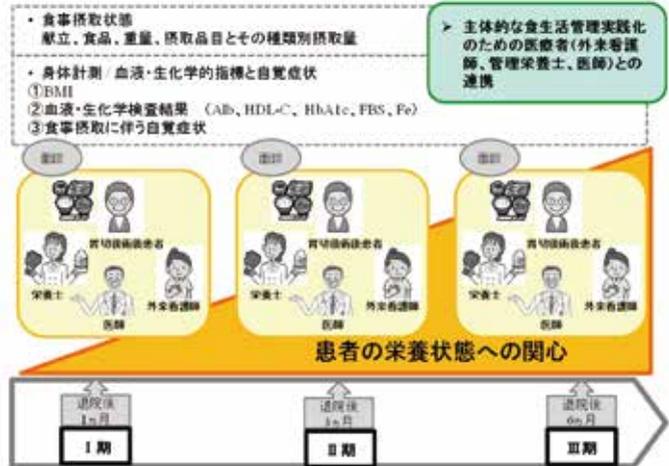
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

術後患者の組織の修復と脂肪の回復には術後数か月を要する。術後患者へのn-3系多価不飽和脂肪酸に富む魚油を強化した栄養剤の投与では、死亡率、感染症発生率、在院日数を改善させることが報告されており、周手術期における栄養摂取の重要性が示唆されている。更に、がん患者は、身体機能や栄養状態が十分に回復していない時期より補助化学療法が追加されることも少なくない。術後の体重減少は、術後補助化学療法のリスクファクターとなり、がん治療の補助化学療法における栄養管理の重要性が示唆されている。

しかし、従来の術後長期の栄養・食事指導は、退院前に行われる栄養・食事指導が多く、退院後は「誰に相談して良いかわからない」といった患者からの訴えも多い。術後の後遺障害を含め、適切に対処できているとは言い難い現状である。

研究の概要



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

フレイル、サルコペニアは栄養障害と密接な関係にあり、感染症をはじめとする術後合併症を回避するという観点から、術前および術後における適切な栄養管理を行う必要があるとされている。あらゆる手術に適用できるフレイルを診断するための機能評価のツールはまだない。体組成や脂肪酸やアミノ酸等を含む、患者集団や疾患の特徴を考慮した適切な指標による栄養評価に基づいた、がん術後患者の食生活管理の実践化を経時的に、かつ医師、管理栄養士、看護師の三者が協働して進める必要がある。

知的財産・論文・学会発表など

論文（査読あり、最新の研究成果）：

胃全摘術後患者の食事摂取量と身体状態の特徴—胃部分切除群との比較—、古屋洋子、中村美知子、山梨大学看護学会誌、12 (1)、9-15、2013.

国際学会発表（最新の研究成果）：

Yoko Furuya and Michiko Nakamura, Characteristics of n-3 polyunsaturated fatty acids intakes and serum fatty acid levels in post-total gastrectomy patients: Comparison with post-subtotal gastrectomy patients, The 9th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition (APCCN), 2015

現行の小学校がん教育の課題解決に向けた テラーメイド型がん教育教材の開発



医療技術学部・看護学科 教授
三木 祐子 MIKI, Yuki

看護・
リハビリ
板橋キャンパス

キーワード：小学校がん教育・テラーメイド型・教材開発

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

近年、子育て世代、特に小学生をもつ親のがん罹患者が増加している。日本では 2020 年度より小中高校のがん教育を順次全面実施する一方、教育内容（生活習慣病予防中心）、教員のがん知識や理解の不十分さ、外部講師の確保、がんの親をもつ子どもへの具体的配慮等の課題がある。本研究では、看護教員の「がんの知識」「患者への支援経験」を活かし、子どもががんに対する正しい知識、および家族やがん患者への理解や支援方法が学べる選択可能な「テラーメイド型小学生用がん教育教材」を開発し、「現行の小学校がん教育の課題」や「がんの親（当事者）と小学生が抱える問題」の解決に貢献することを目的としている。

教材は、A. 元気が親をもつ小学生用、B. がんの親をもつ小学生用、C. がんの親と死別した小学生用、の 3 種類とし、各々①がんでどうという病気？（前半：がんの成り立ち・治療）、②がんでどうという病気？（後半：副作用への対応・支援）、③がんにならないために知っておきたいこと（病気から身体を守る力を強くする方法等）の構成とした（「がんの親をもつ小学生用」のみ、①～③の 3 部構成、その他は①③の 2 部構成）。また、全教材共通のクイズも設定し、教材利用による知識量増加が確認できるようにした。

教材の主な工夫は、①「がんに対する正しい知識」「家族やがん患者への理解・支援方法」を中心に、現行の小学校学習指導要領の内容（理科など）に準じた、②多くのがん患者が辛いと感じる副作用、家族（子ども）が支援できる内容を取り入れた、③「生活習慣病」の用語には触れず、「がんはお酒やタバコでなりやすい」と言われているが、まだ詳しいことは分かっていない」に留めた、④子ども達が興味関心をもち、集中して視聴できるように、音声付きアニメーション動画、物語調の内容とした点である。

現在、開発した教材の試用（動画視聴）、および評価（①形成的評価：クイズの正答率、②教材の実用性：子どもや保護者のアンケート回答、教材視聴中の子どもの行動観察）について、対象者を段階的に分けて行い、結果をまとめていくところである。

◎ストーリー（教材「がんの親をもつ子ども」の一例：動画）

★母親ががんで治療を受けることを知ったコアラくん（主人公）が、夢の中でコアラザエモンに変身し、母親の身体に入って様々な登場人物に出会い、がんについて多くのことを学ぶ



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在、がん教育教材を利用するための HP 作成、および HP 内のコンテンツに入れる汎用性のある教材の最終化を目指しており、共同研究者の宮崎誠氏（ラーニングテクノロジー開発室、宇都宮キャンパス）の他、他大（文星芸術大学）と連携しているところである。

知的財産・論文・学会発表など

- 1) 三木祐子, 南川雅子, 伊藤文子, 鈴木良香, 宮崎誠, 古屋洋子, 若松千尋, テラーメイド型小学校がん教育を目指した教材開発—教材（試作物）の試用・評価, 第 37 回日本がん看護学会学術集会, 2023. 2.
- 2) 三木祐子, 南川雅子, 伊藤文子, 角田知穂, 寺田由紀子, 園山真由美, 古屋洋子, 堀内裕子, 鈴木良香, 若松千尋, テラーメイド型小学校がん教育教材開発に向けたトライアルと課題, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020. 12.

親のがんを知らされた子どものサポートプログラム



医療技術学部・看護学科 教授

南川 雅子 MINAMIKAWA, Masako

看護・
リハビリ
板橋キャンパス

キーワード：がん、親子、小学生、安全基地

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

学童期にある子どもは親のがんに罹患したことを知らされると、「自分のせいではないか？」等と子どもなりの解釈をしてその思いにとらわれたり、成績不振、腹痛や頭痛などの身体症状の発現、情緒不安定など、日常生活に支障をきたすようになる。このような子どもが、親のがん罹患による親子関係の変化、自身の気持ちや日常生活の変化に対処できるようになるためには、がんに直面している親ではない第三者の大人によるリフレクションの手法を用いた特別なサポートと、思いのままに感情表出できる場が必要とされている。そこで米国のグリーフサポートプログラムの原型であるダギーセンターモデルを基盤とし、親のがんを知らされた学童期の子どもとその親（患者またはその配偶者）を対象としたサポートプログラム（名称：コアラカフェ®）を立ち上げ、コロナ禍においてはオンラインにて1回/月の頻度で活動を行っている。

親のがんを知らされた子どもにみられる反応

- ・成績低下
- ・孤立、うつ傾向、引きこもり
- ・身体症状（頭痛、腹痛など）
- ・乱暴
- ・落ち着きのない行動
- ・子どもらしくない（自分の気持ちに蓋をして良い子であろうとする）

このような反応が子どもの悲しみの反応であることは、周囲の大人に気づかれにくい。親には、子どもの反応に気づくだけの気持ちの余裕がないことが多い。

コアラカフェ®は、親のがんを知らされた子どものための「安全基地」をつくる

- ・子どもが、周囲の大人や子どもから差別を受けない
- ・子どもが、いつでも逃げ込める
- ・子どもが、自由に感情表出することができる
- ・子どもが、自分の気持ちをあるがままに受け止めてもらえる
- ・子どもが、何を話しか、何を話さないかを自由に決められる
- ・親のがんや治療について、年齢に応じた説明を受け、正しい知識が得られる

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

18歳未満の子どもを抱えているがん患者の1年間の全国推定発症人数は56,143名と推計されている。しかしがん患者の治療・療養の場である病院や地域・在宅では、子どもへの対応に苦慮している。実際に「患者に子どもがいるが、対応方法が分からない」との声が多く聞かれる。また、文科省が2017年より小・中・高等学校でのがん教育を推進しているが、現場では教育対象の子どもが当事者であったり、親のがん患者である場合の個別対応の困難さを懸念し、浸透しにくい現状がある。本プログラムを必要としている人、医療施設、教育施設等に周知されれば、子どもの受け皿になりうる。

知的財産・論文・学会発表など

【著書】有賀悦子，南川雅子編：親の親をもつ子どもたちをサポートする本，青海社，2017。

【論文】南川雅子：親のがんで治療中、または死別した子どものサポートプログラム，帝京大学医療技術学部紀要，5，P1-10，2016。

【国内学会発表】南川雅子，寺田由紀子，他：親のがんを知らされた子どもをサポートする「コアラカフェ®」の活動について，日本在宅医学会第20回記念大会（公募シンポジウム）。

寺田由紀子，南川雅子，古屋洋子，三木祐子，伊藤文子，他：親のがんを知らされた子どもと保護者への支援について—コアラカフェの活動の実際—，第37回日本がん看護学会学術集会，2023（交流集会）。

【海外学会発表】Yukiko Terada, Masako Minamikawa, et al. : KOALA CAFE® : Support for children told of their parent's cancer in Japan, International Conference on Cancer Nursing (Auckland, New Zealand), 2018.

長期的運動の腎保護作用の機序解明 心臓リハビリテーションへの補完代替療法の活用



医療技術学部・スポーツ医療学科 健康スポーツコース 准教授

小川 佳子 OGAWA, Yoshiko

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.80e8e8b15bf4e931.html>

**看護・
リハビリ**

八王子キャンパス

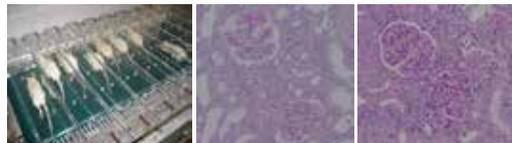
キーワード：腎臓リハビリ、心臓リハビリ、運動、音楽、香り

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

1. 長期的運動の腎保護作用の機序解明

継続的な運動は、生活習慣病や心血管疾患の発症や進展を抑制することが明らかになっており、近年、安静が重要視されてきた腎疾患においても運動が障害の進展を抑制する可能性が示唆されている。しかし、運動の腎保護作用については未だ十分に明らかになっていないとはいえず、その作用機序もはっきりしていない。そこで、腎疾患モデル動物にトレッドミル走運動を長期的に行わせ、運動が腎障害を抑制するか、抑制するのであればどのような機序で抑制するのかを検証している。



(写真左)トレッドミル走運動中のラット(中)運動をしていないラットの腎組織像(右)運動を実施したラットの腎組織像 8週間のトレッドミル走運動を実施することで食塩感受性高血圧ラットの腎障害の進展は有意に抑制され、腎組織像では糸球体の硬化の程度が有意に軽かった。

2. 心臓リハビリテーション(リハビリ)への補完代替療法の活用

補完代替療法とは、通常の治療法を補ったり、代わりに行ったりする治療法である。現在、補完代替療法のなかでも「音楽」と「香り」の自律神経系や内分泌系への効果に着目し、音楽療法、アロマテラピー、およびそれらの運動療法との併用効果について検証を行っている。心血管疾患において、音楽や香りはおもに患者の不安や抑うつ改善、痛みの軽減といった心理的効果を狙って用いられることが多く、生理的効果についてのエビデンスは乏しい。また、従来の心臓リハビリプログラム、とくに運動療法との併用効果については全く明らかになっていない。そこで、現在は心血管疾患患者を対象とする前の予備的研究として、健常者を対象とした研究を進めている。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

わが国では生活習慣の変化や人口の高齢化を背景として、慢性腎臓病患者や透析導入患者が年々増加しており、医療経済的な負担も莫大なものとなっている。運動の腎保護作用とその機序が明らかになり、腎臓リハビリにおける運動療法のプログラムが確立されれば、腎疾患患者の透析導入時期の遅延やそれに伴う患者QOLの向上、医療費の削減などにつながる。また、運動療法と音楽療法やアロマテラピーの併用により運動の効果が増幅されることが明らかになれば、従来の心臓リハビリプログラムに補完代替療法を活用することでよりよいリハビリ医療が提供できるようになる。

知的財産・論文・学会発表など

- Sakuyama A, Ogawa Y, et al. Effects of exercise training on the renin-angiotensin system in the kidneys of Dahl salt-sensitive rats. *Med Sci Sport Exerc* 54(7): 1105-1113, 2022.
- Sazawa K, Ogawa Y, et al. Effects of nighttime lavender aromatherapy on mood and physiological indices of stress in healthy young females. *J Phys Ther Sci* 34(7): 503-508, 2022.
- Ogawa Y, Takahashi J, et al. Exercise training delays renal disorders with decreasing oxidative stress and increasing production of 20-hydroxyeicosatetraenoic acid in Dahl salt-sensitive rats. *J Hypertens* 38(7): 1336-1346, 2020.
- Jia T, Ogawa Y, et al. Music attenuated a decrease in parasympathetic nervous system activity after exercise. *PLoS ONE* 11 (2) : e0148648, 2016.

スポーツ傷害予防の取り組み



医療技術学部・スポーツ医療学科 健康スポーツコース 准教授
スポーツ医科学センター

佐保 泰明 SAHO, Yasuaki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bc164e74fd526049.html>

**看護・
リハビリ**

八王子キャンパス

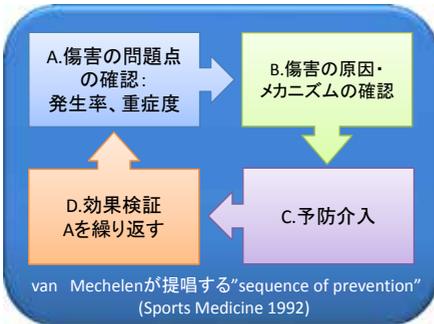
キーワード：傷害予防、グロインペイン

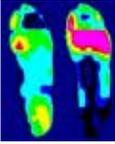
SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

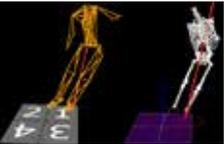
東京 2020 オリンピックが終わり、スポーツに注目が集まる中、スポーツ競技の安全性確保が問題となっている。近年では各種目の傷害状況の調査及び各傷害の発生メカニズムの解明、予防プログラムの考案が行われている。そこで現在は、van Mechelen が提唱した sequence of prevention model (Sports Med1992) を参考に以下のことに取り組んでいる。

- ・サッカーを中心とした大学スポーツの傷害調査
- ・グロインペインの発生メカニズムの解明
- ・第5中足骨骨折の発生メカニズムの解明
- ・ジャンプ、カッティング等のスポーツ動作の動作分析
- ・傷害予防の実施

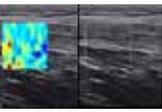




ステップ動作中の足底圧の解析
→第5中足骨骨折のメカニズムの検討
→インソールの効果検証



3次元動作解析
→スポーツ動作と傷害の関連を検証



超音波による筋硬度測定
→グロインペインとの関連を検証

看護・リハビリ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

スポーツに関連した傷害のメカニズムを解明のため、三次元動作解析や足底圧、超音波、筋電計など様々な手法を活用して取り組んでいる。

傷害予防法の検討についてはトレーニングプログラムの考案をはじめ、インソールやサポーターの提案も行っていきたいと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

科学研究費 若手研究 (B) 研究代表

「鼠径周辺部痛症候群の危険因子と発生メカニズムの解明—股関節機能に着目して—」

ICF に基づいた合理的配慮提供に関する研究



福岡医療技術学部・理学療法学科 教授

堺 裕 SAKAI, Yutaka

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bc164e74fd526049.html>

看護・
リハビリ

福岡キャンパス

キーワード：ICF、合理的配慮、特別支援教育、小児

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】 b1645 判断*	【活動】 d4運動・移動** d7 対人関係* d177 意思決定*	【参加】 d7 対人関係*
【環境因子】 e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】 認知の特性 発達 の段階、年齢等	

*：提供する際の留意点に関するもの **：障害の状態に関するもの

図：合理的配慮提供における ICF の活用例（日本特殊教育学会第 55 回大会発表論文集より）

特別支援教育における ICF（国際生活機能分類）の活用を図るため、特別支援教育と関係の深い ICF カテゴリーを明らかにするとともに、ICF モデルを児童生徒の実態把握から指導・支援を導き出すためのツールとして実践的に活用し、その有効性を示してきた。合理的配慮提供に関しては、中央教育審議会初等中等教育分科会による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」のなかで述べられている合理的配慮の3観点のなかの11項目に関する内容と ICF カテゴリーを照合することにより、合理的配慮を検討する上で参考となる ICF カテゴリーを抽出した(堺他, 2015)。さらに国立特別支援教育総合研究所によるインクルーシブ教育システム構築支援データベースの実践事例を基に、実際に提供された合理的配慮の内容と関係の深い ICF カテゴリーを明らかにすることにより、合理的配慮を決定するための ICF コアセットの作成に取り組んでいる(堺他, 2018)。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

特別支援学校に在籍する児童生徒を担当する理学療法士として、特別支援教育との連携が大切であることはいうまでもない。昨今、合理的配慮の提供に関する法整備がなされ、特別支援教育における ICF 活用はより一層意義深いものとなっている。そこで、特別支援学校に在籍する症例や特別支援教育現場において ICF が有効に活用されるために、実践研究に力を注いでいる。障害のある児童生徒の実態把握やそれに基づく合理的配慮の提供を効果的にプランニングできるよう ICF をツール化することは、適切なプロセスに基づいた治療、指導、支援の提供ひいてはインフォームドコンセント、多職種連携、帰結の向上等のためにも有効となると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

堺裕：合理的配慮検討における ICF-CY カテゴリーの活用、日本特殊教育学会第 55 回大会発表論文集、2017

堺裕他：病弱・身体虚弱のある児童の心理面・健康面に関する合理的配慮 ICF-CY コアセット作成の試み—インクルーシブ教育システム構築支援データベースの実践事例と ICF-CY との適合性検討に基づいて—、帝京大学福岡医療技術学部紀要、13, 9-19.2018.

疾患モデル動物に対する基礎研究



福岡医療技術学部・理学療法学科 講師

行平 崇

YUKIHIRA, Takashi

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bc164e74fd526049.html>

**看護・
リハビリ**

福岡キャンパス

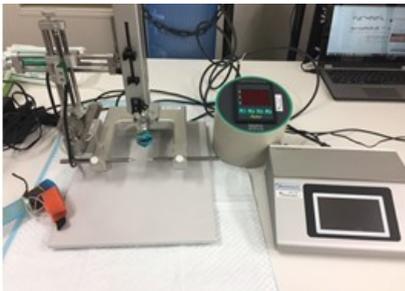
キーワード：モデルラット、行動実験、免疫染色

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

脳卒中は、我が国における死因の第4位に位置しており、要介護となる要因の1位を占めている疾患である。近年、脳卒中に対するリハビリテーションとして、脳損傷後の脳の可塑性や神経ネットワークの再構築といった神経機能回復促進を目的とした電気刺激療法が注目されている。末梢への電気刺激が脳出血モデルラットの脳損傷部位のアポトーシスを抑制している可能性を見出した。今後は効果的な周波数や頻度の検討、作用機序を解明することで臨床への応用につながる事が期待される。

また、舌への刺激（触覚、味覚、聴覚）が認知症や発達障害モデルラットに対してどのような影響をもたらすのかについて、共同で検証を行っている。



Stereotaxic装置

脳卒中モデル、アルツハイマー病モデルの作成に使用



8方向放射状迷路
記憶力の測定に使用

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在は熊本保健科学大学のチームと共同で、舌への刺激が認知症や発達障害モデル動物に対してどのような影響を与えるのかについて基礎的な研究を用いて検証中である。今後も刺激の頻度や強度、方法、種類などを検証していく必要があるが、身近な道具や食材による触覚刺激や味覚刺激が脳にどのような影響を及ぼすのかを模索している点で、地元へも還元できる可能性を秘めている。

知的財産・論文・学会発表など

論文：深町翔平、行平 崇、亀山広喜、久保高明、山元総勝、申 敏哲：上肢末梢神経電気刺激が脳出血モデルラットの損傷部位に与える影響、物理療法科学 22：1-9, 2015

学会発表：行平崇、申敏哲、小牧龍二、福永貴之、土井篤、吉村恵：舌への体性感覚刺激がラットの記憶力に及ぼす影響について、第71回西日本生理学会 2020. 11. 6

サルコペニア / フレイル予防における 理学療法士の役割



福岡医療技術学部・理学療法学科 助教

吉村 和代 YOSHIMURA, Kazuyo

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bc164e74fd526049.html>

看護・
リハビリ

福岡キャンパス

キーワード：フレイル 運動 予防

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

日本の平均寿命が男女ともに延長してきており、超高齢社会と迎えている。平均寿命は今後も延長を続けると予測されており、より高齢者の医療・介護に関わる様々な問題および負担が増大すると考えられる。それを防ぐためには、高齢者の疾病管理とともに生活機能障害を予防することが重要である。

生活機能障害の原因としてフレイルがある。フレイルとは、高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、転倒、日常生活活動能力の低下、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態とされ、身体的、精神的、社会的側面など多くの要因より発生するとされている。また、サルコペニア（加齢にともない筋肉が減少する病態）はフレイルの重要な一因である。

サルコペニア / フレイルの予防は、レジスタンス運動の要素を含む身体活動や蛋白質摂取を意識した食事、社会参加が大切であると言われている。現在「サルコペニア・フレイル予防事業」にて、運動、指導、評価を実施している。今後、サルコペニア / フレイルに対する運動の予防効果や負荷量の検討、さらに高齢化が進む大牟田市において認知症の予防として軽度認知症障害（MCI）への早期発見・早期対策の研究を進めて行きたいと考える。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

超高齢社会に突入している日本において、介護状態に至る時期を少しでも遅らせて、健康寿命を延長させようとする取り組みが積極的に行われている。フレイルは、適切な介入により健康な状態に戻せると考えられており、要介護状態に陥る前段階と位置付けられているフレイルの段階から予防を行う必要がある。認知症の予防についてもMCIの段階での介入が大切である。フレイルやMCIの予防により、健康寿命の延伸、医療・介護の負担軽減に貢献できる可能性があり、今後、学生に対して予防リハビリテーションの大切さを示し、身体的な問題のみでなく心理精神面の問題も配慮できる広い視野をもった理学療法士の育成に努めていきたいと考える。

3D プリンターによる筋電義手製作



福岡医療技術学部学部・作業療法学科 教授

沖 雄二

OKI, Yuji

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bc164e74fd526049.html>

看護・
リハビリ

福岡キャンパス

キーワード：筋電義手、3D プリンター

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

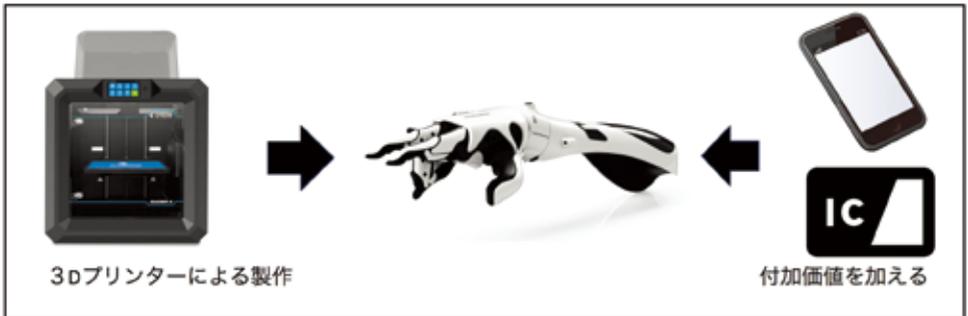
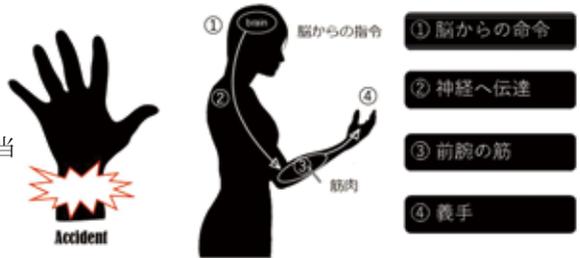
我が国の筋電義手の普及率は僅か 2% である。

1 本の価格が約 270 万円と高価。

訓練可能な医療機関が県内に 1 箇所のみ。

そこで誰でも購入可能な筋電義手を
目的に下記の内容に取り組んでいる

1. 安価で複数購入可能
2. 把持機能以外の付加価値を追加
3. 作業療法士が製作から訓練まで担当



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在日本で使用されている義手の 8 割が装飾義手である。この義手の中で筋電位を利用した筋電義手の普及率は約 2% である。普及率の低い理由は筋電義手が高価であること、労災保険申請の場合は医療機関が少ない、障害者総合支援法では医師の要件がある等である。

筋電義手製作を学内教育で行うことで今後、臨床現場の作業療法士が 3D プリンターを用いることで安価な筋電義手の製作が可能となる。装着前の仮義手訓練も可能となる。筋電義手の外見はスタイリッシュであり、カラーバリエーションも豊富である。また、ソケット部分にはスマホや交通系 IC カードを挿入させることにより付加価値を追加可能である。

看護・リハビリ

地域在住高齢者と作業療法学生が参加する作業に 焦点を当てた遠隔交流プログラムの開発



福岡医療技術学部・作業療法学科・助教

古賀 昭彦

KOGA, Akihiko

URL : <https://researchmap.jp/akihikokoga>

福岡医療技術学部・作業療法学科 教授

安田 邦彦

YASUDA, Kunihiko

看護・
リハビリ

福岡キャンパス

キーワード：地域在住高齢者、作業療法教育、デジタルデバインド、スマートフォン

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

近年、スマートフォンの普及で簡単にインターネットに接続できるようになったが、高齢者の保有率は非常に低く、世代間の格差が認められ、高齢者の情報格差（デジタルデバインド）の問題が存在している。本研究では、地域在住高齢者と作業療法学生を遠隔と対面で関わるプログラムを開発している。

地域在住高齢者に対しては大学生によるスマートフォンの使用教育、作業療法学生には地域在住高齢者と作業に焦点を当てた関わりを行うことでの遠隔教育の意義を明らかにすることにより、情報格差問題や遠隔交流を行う教育プログラムの開発に取り組んでいる。

【約2か月の遠隔・対面併用プログラム】



地域在住高齢者と作業療法学生がペアを組み約2か月間、スマートフォンの使用教育や作業に焦点を当てた関わりを実施することで、高齢者のスマホ技能の向上、主観的健康感、作業療法学生の職業アイデンティティの向上を目指す。



【対面セッション】



【遠隔セッション】

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

高齢化と情報通信技術が進む我が国では、高齢者のICTの活用が推進されデジタル活用の恩恵を受けられる支援整備が行いつつある。本プログラムの開発を行うことにより大学としての地域貢献を行い、社会貢献を進めることができると考えられる。また同時に、本プログラムを開発することで、作業療法学生の視野を広げ、地域在住高齢者に対する理解を深め、医療職種としてのアイデンティティの確立につながる教育を提供できると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

論文：古賀昭彦, 久野真矢: 本邦における ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) を活用した地域在住高齢者の支援に関するスコーピングレビュー ～作業療法領域の課題～. 作業療法・福岡. 37-43. 2023.

学会発表：古賀昭彦, 久野真矢, 安田邦彦, 他: 作業に焦点を当てた遠隔交流プログラムに参加した地域在住高齢者の経験. 第28回全国地域作業療法研究大会, 2023. 2. 18.

地域診断に関する研究



福岡医療技術学部・看護学科 教授
森山 浩司 MORIYAMA, Koji

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.7876e3e971f393eb.html>

看護・
リハビリ
 福岡キャンパス

キーワード：地区視診、地域診断、保健師教育

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

地区視診は、地域を単位とした情報収集の方法のひとつであり、実際に現場にいき、自分の目で見たり感じたりして直接的にデータを得る。しかし、ただ漠然と見てくればよいというものではない。地区視診を行うには、目的意識をもって注意深く観察しなければならない。眺めるだけではごくありふれた風景に終わってしまうものが、注意深く観察することで様々な意味をもっていることがわかる。

地区視診の意味は、地域全体を総合的にとらえるために、とくに地域の印象や全体像を理解することにある。また、地区視診では、既存の資料や調査からは得にくい地域独特の雰囲気、地理的状況、生活様式などの情報を収集することが可能である。さらには、資料や調査などから得られた、人口統計学的データなどを現実の状況と照らし合わせ、確認するのにも有用である。地区視診を行うにあたり、保健師学生がどのような視点で地域（地区）を観察したか、具体的な観察項目として整理を行った（下記に最初の3項目のみ記載する）。

具体的な観察項目

1.家屋と街並み	集合住宅（棟の数・エレベータの有無・1棟の戸数、駐輪場・駐車場の形状、階数、築年数）一軒屋の状況（家屋の占有面積、何階建て、庭の面積、洋風・和風、築年数、2世帯住宅（表札）、家屋同士の密集・散在状況、車の保有数、車種、車庫の様子、外壁の状況、瓦屋根かどうか）、建築資材（鉄筋・鉄骨・木造等）、家屋の並び、路上駐車、街路樹の様子、幹線道路からの距離、アスファルトの状況、歩道の状況・幅、用水路の広さ・蓋の有無、立地（山間部・都市部・高台・海岸沿い、地盤、崖の状況、埋め立て）、道路（幅・起伏・国道・県道・市道・私道・車線数・横断歩道・歩道橋）、集落同士の位置関係、1つの集落全体の形状と道路との関係、空き家・空室の状況。
2.広場や空き地の様子	広場・公園：（新旧、遊具有無、管理状況（草やゴミ）、子どもの遊ぶ状況、高齢者の利用状況、広さ、利用時間帯、公衆トイレ、数、管理主体）その他・空き地：テニスコート、野球場、ゲートボール場、空き地の頻度、面積、田畑の敷・状態・区画整備、養殖池、田畑の様子（作物の種類、栽培方法、管理状況、販売・自宅用）。
3.境界	集落・市町村の区切り状況（峠、川、国道）、標識、家々の区切り状況、田畑と家々の境界、交通機関を意識した境界、集落内での小境界。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本指標が実際の実習場面においても活用されることにより、また「公衆衛生（地域）看護活動は、それぞれの地域構造や地理的条件を考慮し、きめ細かく地域住民のニーズを取り入れた活動が望ましいと考えられていることから、地区視診の具体的な観察項目を蓄積し、DVD等の視覚的教材を開発することで、保健師学生の視野を広げ、より多面的視点で地域住民理解へと繋がると思われる。

知的財産・論文・学会発表など

論文 森山浩司、長谷川幹子、今村恭子：地区視診における具体的な観察項目の構築に向けて。姫路大学看護学部紀要第8号 p1-6, 2016年12月